

学生大使 実施報告書

氏名：早川航貴

学部・学科（コース）・学年：理学部・理学科・1年

派遣先大学：ガジヤマダ大学

派遣期間：2週間

1 日本語教室での活動内容

今回の日本語教室は毎回大体 30 人前後が参加し、1 人当たり 2 から 3 人を毎回教えた。日本語教室に来てくれる人は初心者から上級者まで様々な人がいたが 1 番多いのは初心者だった。同じ初心者でもひらがなの読み書きができるけど単語を知らない。または単語を知っているがひらがなの読み書きができないなど人によって教える内容は毎回変わった。私はひらがなの読みを教える時は子供向けのあいうえお絵本を用いて一文字ずつ雑談を交えながら退屈にならないように覚えているかの小テストを交えつつ教えていった。ひらがなの書きを教える時はマス目を利用して教え、とめ、はね、はらいなどを教えることで関連付けて覚えられるようにした。簡単な日本語の単語を教える時は色、動物、体の部位などのグループごとに教えて覚えやすいように工夫した。また、教えている人の好きなアニメの日本語を教えることもたびたびあった。上級者に教える時は日本語で雑談をすることでアウトプットの負荷を与えた。また、カルタなどを用いて日本語のことわざや漢字を教えた。1 番難しく感じたのは中級者でひらがなの読み書きはできるが日本語での会話は難しく、日本語の文法を教えるのだが、自分の拙い英語力では苦労した。いずれのレベルの人でも英語は堪能で私の拙い英語をうまく聞き取ってくれてくれた。教えた人は皆のみこむのがとても速く、前回教えたものを次回の教室ではかなり覚えてきていてかなり驚いた。

2 日本語教室以外での交流活動

日本語教室は午前と午後の 2 コマあり、その間のランチタイムで日本語教室の人に昼ご飯に連れてってもらった。場所は学校のカフェテリアであったり大学の近くの店であったりさまざまであったが、どれもおいしいものばかりで、さらに値段も日本に比べてとても安く、観光でインドネシアに来たら絶対に体験できないと感じた。最初の週末は宮殿にいった。そこにある博物館を見学して、インドネシアの結婚や祭事などの文化について学んだ。また、インドネシアに古くから伝わる話をもとにした劇を見学して、日本との文化の違いを再確認した。次の日はインドネシアで発見された遺跡であるポロブドゥールに行った。この遺跡はインターネットなどで見たことがあったが、実物を見るとあまりの大きさに圧倒された。また、そのあとには標高が高いところにある場所を訪れ、日本では見られない雄大な景色を見ることができた。このプログラムの後半にはガジヤマダ大学の現地実習に参加できる機会があり、大学からバスで 6 時間ほどのところにあるお茶とカカオのプランテーションを見学した。そこではまずお茶がどのように作られているのかについての説明とお茶の収穫体験を行ったその後工場見学の後には紅茶の試飲もした。次の日にはカカオのプランテーションに行き、カカオが実際にどのように木になっているかということやチョコレートになる前のカカオの試食などもしてお茶とカカオについての知識を得た。週末などの休み以外でもインドネシアで有名なチョコレートのお店へ行ったり、カラオケに連れて行っても

【学生大使 実施報告書】

らったりしてインドネシアを満喫できたと思う。

3 参加目標への達成度と努力した内容

私は今回インドネシアの文化や価値観を知ったり、グローバルコミュニケーション能力を高めたりするためにこのプログラムに参加した。前者については積極的にインドネシアの人とのふれあいを求めて、様々な場所に行くことによりいろいろな文化を知ることができたと思う。例えば、後者については日本語教室で日本語を教えていくうちに鍛えられたと思う。最初の方は慣れない英語での会話をすることで疲れ果てていたが、積極的に会話を続けるようにしたところ毎回日本語教室をしていくにつれて少しずつではあるが英語でのコミュニケーションに慣れるようになった。

4 プログラムに参加した感想

実際にインドネシアに行ってみて最初はインドネシアの文化に驚くこともあった。例えば、日本では当たり前のように湯船があるのに対してインドネシアはシャワーのみで、トイレも水洗式でないところが多かった。インドネシアにはムスリムの方がたくさんいて決まった時間に行われる祈りの時間のための場所がたくさんあったり、テレビのcmではハラールであることが強調されていたりとさまざまであった。食事に関してもインドネシアの料理は辛いものが多く、逆に飲み物はかなり甘いものが多かった。このようにインドネシアと日本では違うところは多いが、日本と同じところも多かった。例えば人間関係についてである。私はこのプログラムでインドネシアに行く前は英語力に不安があり、ちゃんとコミュニケーションがとれるかが不安だったが、実際に英語で話してみるとインドネシアのひとは私が伝えたいことを親身になって聞いてくれてかなりうれしかった。このことは逆の立場から考えるともし日本に来た外国人が一生懸命日本語で話していたときに私は親身になって聞き取ろうとすると思うので、当たり前のことであった。このように無意識のうちに文化の違いなどから外国人が全く違う人間に思えることもあるが、実際は同じ人間であり、楽しさや思いやりは共有できるということに改めて気づかされた。

5 今回の経験を踏まえた今後の展望

私はインドネシアに行って海外に行くということについて大きな価値を見出した。私は今回のプログラムで海外に行くことにより自分の世界が広がったように感じる。私はこれからもいろいろな国に行きさらに自分の世界を広げていきたい。また、それに付随して英語力も上げていきたいと考えている。そのために今回の経験を踏まえて自分にアウトプットの負荷をかけてスピーキングの練習をしていきたいと考えている。

【学生大使 実施報告書】



海



最後の全員集合